

kawa (1955) により “*Hypnum plumaeforme*” として、また同じくネパールから Noguchi (1964) により *Hypnum nakaoanum* Ando として報告されたものはいずれも *H. flaccens* に相当する。ビルマ、シッキム、中国（雲南省）から同時に発表された *Hypnum zickendrahtii* Ren. et Card. は、ビルマ産の syntype 標本によると、葉の細胞が長い（50~70 μ に対し 60~80 μ ）ことを除いては、*H. flaccens* と顕著な差異がなく、恐らく同種と思われるが、さらに多数の標本にもとづいて検討する必要がある、本報では synonym におとすことを保留した。Cardot (1915) は本種をアフリカ産（ブルボン、マダガスカル）の *Hypnum aduncooides* (Brid.) C. Muell. と同じものと考えた。筆者はまだ *H. aduncooides* の標本を見ていないので、Cardot の取扱いについて何も意見を述べることができない。*Hypnum submolluscum* Besch. は中国西南部（雲南、四川）に分布する種であるが、系統的には *Hypnum fertile* Sendt. に近いようである。以上5種のうち、*H. submolluscum* を除いた4種は、外観や葉の形態が *H. plumaeforme* や日本特産の *Hypnum sakuraii* (Sak.) Ando に酷似していて、間違われやすい。そこでこれらの種を識別するための検索表を作成、提示した。

□ Hartmann, F. K. und G. Jahn: **Waldgesellschaften des Mitteleuropäischen Gebirgsraumes nördlich der Alpen.** 636 頁, 別冊に組成表 47 枚, 気温図 2 葉, Gustav Fischer Verlag, Stuttgart, DM 148 (1967).

本書は、ドイツのゲッティンゲン大学の基礎造林学研究所長のハルトマンと、同じ研究所のヤーンの共著になる。これは *Ökologie der Wälder und Landschaften* の第1巻で、以下第2、第3巻もつづいて刊行されることになっている。本書はハルトマンの1931年いらいの群落分類学的、植物地理学的、群落生態学的研究の集大成ともいえるもので、前著の *Waldgesellschaften der deutschen Mittelgebirge und des Hügellandes* (1953) とか *Grundlagen der Forstwirtschaft* (1959) その他の業績のもとになった資料をふくむ。内容は対象とした地域、方法、群落・気候・土壌の略記法、群落分類法、原組成表の解説（46~275頁）、各組成表に対応する土壌の特性表（276~360頁）、常在度表の解説（361~570頁）、文献、群集名索引などからなる。ここで森林群落については、現在同じ大学の生態学者であるエレンベルクの全層群落（草本層、コケ層までふくむ）の考え方にしたが、ブロン・ブランケの立場で群落分類を行なっている。組成表の各地点ごとに解説がついているので、単に概括的でなく立ちいって具体的な資料にあたりたい場合にはきわめて便利である。ルブナーの森林生態地理学 (Rubner, K.: *Die pflanzengeographischen Grundlagen des Waldbaues*, Neumann Verlag, Radebeul, Berlin, 1960) のようなものと併読すると、ヨーロッパの森林植生の理解に資するところが大きいであろう。理学畑でなく林学畑の人がこうした一見遠回りのような天然林の群落と立地の資料をつみあげることには敬服させられた。(沼田 真)